

舞鶴市
子供の農山漁村体験交流計画

令和2年3月
舞鶴市

目次

I 章 本事業の目的	1
1. 目的	1
2. 舞鶴市での体験交流の意義	1
II 章 現状把握	2
1. 舞鶴市について.....	2
(1) 地域特性.....	2
2. 舞鶴市小中学校等学校の現状	2
(1) 舞鶴市の教育プラン	3
(2) 小中学校の課外活動について	5
3. 観光事業におけるこれまでの取組み	8
(1) 八王子市からの中学生受入	8
(2) 提供可能な体験プログラム	11
(3) 受入体制.....	13
III 章 プランニングの整理	14
1. 舞鶴市子ども農山漁村体験プログラム	14
1) 目的・狙い.....	14
2) 概要	14
3) プログラム例.....	16
IV 章 継続的な実施体制の構築	18
1. 継続的な実施体制の構築等に係る現状と課題.....	18
(1) 受入体制.....	18
(2) プログラム.....	19
(3) 営業・情報発信の充実化	20
(4) 人材の確保・育成	21
2. 継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策	22
(1) 受け入れ体制の充実化	22
(2) 体験プログラムの充実化	23
(3) 営業・情報発信	24
(4) 人材の確保・育成	25
V 章 目標数値の設定	26
(1) 受入体制の充実化	26
(2) プログラムの充実化	26
(3) 営業・情報発信	26
(4) 人材の確保・育成	26

I 章 本事業の目的

1. 目的

舞鶴市の西部に位置する農山漁村「大浦（おおうら）地域」は、漁業と農業を基盤産業としつつ、昭和の頃は海水浴をメインとした民宿業を副業として安定した所得がありました。しかしながら、道路網の発達により海水浴が日帰りになった昨今にあっては、宿泊が減り民泊業は廃業が続いており、おのずと経済規模は一次産業だけのボリュームに縮小、人口は減少の一途をたどっています。

民宿施設及び元民宿施設の空き家が多数現存するこの地域において、農山漁村文化に根差した体験及び海洋資源等を持続可能にする取組み（SDGs）の学びとなるコースを開発し、民宿業のビジネスモデルを都市部との体験交流へと転換することに取り組みます。

本計画は、都市部の子供たちなどの体験交流ビジネスの創出により、都市部の子どもの成長を支え、持続可能な社会への関心を高め、舞鶴市の関係人口を生み出し、地域の観光産業や所得を生み出すといった、地域課題の解決を図ることを目的に、子供たちの農山漁村体験交流の指針として作成するものです。

2. 舞鶴市での体験交流の意義

舞鶴市では、体験交流を通じて住民・地域が元気になり、来訪者との縁や絆を大切にし、交流を持続的に続けるため農山漁村に経済効果をもたらしながら、関係人口を創出することを目的にしています。

世界記憶遺産「舞鶴への生還 1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」があり、令和元年 SDGs 未来都市に選定された本市は、平和学習及び環境学習をテーマとした子供たちとの体験交流を行ない、命の尊さ、家族の大切さ、自然との共生を感じ、未来を考える機会を提供します。

さらには、地域住民と子供たちの体験交流は、社会問題をともに考え、発信する場であり、SDGs 未来都市としての本市のあり方を深めるものです。

【舞鶴市の体験型教育旅行の考え方】

- ① 平和や環境の過去と現在を学びます
- ↓
- ② 人と人、人と自然の共生について考えます
- ↓
- ③ 今、自分たちが未来のためにできることを考えます
- ↓
- ④ 子供たちの問題発見力、未来への責任感や自立心を高めます。

Ⅱ章 現状把握

1. 舞鶴市について

(1) 地域特性

京都府北東部の市であり、市域の大半を山林地域が占めているが、1級河川の由良川や西舞鶴の高野川、伊佐津川、東舞鶴の与保呂川、志楽川流域などでは沖積地が発達しています。人口は79,869人（令和2年2月現在）と減少傾向にあるものの、京都府で5番目に大きい自治体であり、北部地域の中心的地位を保っています。

舞鶴市は、西地区に安土桃山時代に築かれた田辺城跡や城下町の古い町並みが残り、東地区には旧海軍ゆかりの赤れんが倉庫群などの近代化遺産、そして、戦後の海外引揚事業やシベリア抑留などに関する貴重な資料を展示している舞鶴引揚記念館など、多くの歴史的資源があります。

また、古くから舞鶴港では漁業がさかんで、港町としてにぎわう場所でした。しかし、明治時代になり日清戦争に勝利した日本は、ロシアからの攻撃に備え、日本海側の守りを固めなくてはならない状況になり、そこで湾口が狭く、波が穏やかで、たくさんの軍艦を停泊させることができる舞鶴港に、軍事拠点置くことにした。そして1901年、東郷平八郎を初代指令長官として、日本海側で初めての海軍鎮守府、舞鶴鎮守府が設置され、その後舞鶴港は軍港の街として飛躍的に発展していきました。

現在では、田辺城跡地が公園として市民に開放されており、誰でも城跡の見学ができます。

また、北吸栈橋では現海上自衛隊の護衛艦やイージス艦が就航しており、市民などが海上自衛隊の活躍や重要性を体感することができます。

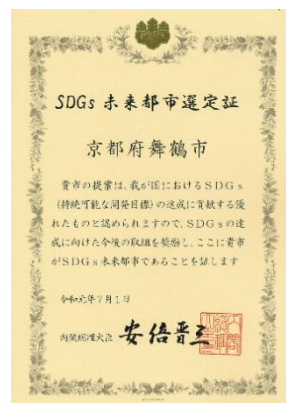
主な産業は、米や茶、舞鶴発祥である京野菜の万願寺とうがらし（万願寺甘とう）（下の写真）などの農業や乳牛、採卵鶏の飼育の畜産業も行われている。さらに、漁業も営まれており、イワシ・サワラ・ブリなど2493トンが水揚げされています。



また、舞鶴市は、内閣府の「SDGs 未来都市」、さらには全国のモデルとなり得る10自治体に与えられる「SDGs モデル事業」に選定され、7月1日に、首相官邸で安倍総理から選定証を授与されました。

「便利な田舎暮らし」など、2030年における本市のありたい姿を明確に示し、民間企業や教育機関等との多様な連携やAI・ICT等の先進技術の積極的な導入により都市の持続可能性の維持・向上に取り組む提案が先駆的であると評価されています。

今後、舞鶴版SDGsの実現に向け、産官学金労言士等の多様な主体との連携を一層強固なものとする中で、現在取り組んでいる舞鶴版Society5.0等を推進し、持続可能なまちづくりを進めるために尽力を尽くしていきます。



2. 舞鶴市小中学校等学校の現状

(1) 舞鶴市の教育プラン

1) 舞鶴市の教育プラン

人口減少や少子高齢化が急速に進展する中、地域に住む誰もが健やかで心豊かに暮らすためには、将来を担う子どもたちへの教育や文化・スポーツ等の振興など、まちづくりの基盤となる人材育成のために、教育の果たすべき役割はこれまで以上に重要なものとなっています。

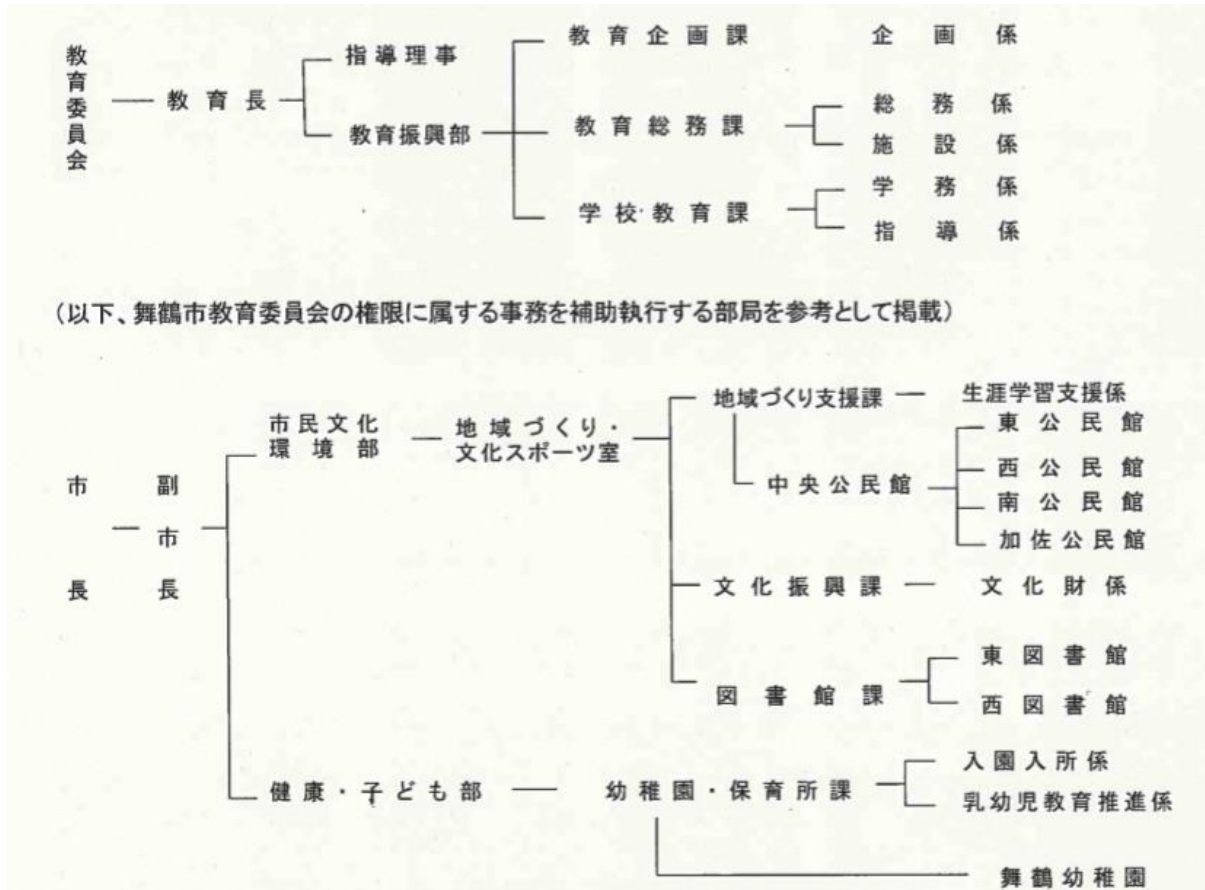
このため舞鶴市では、教育を取り巻く環境や社会情勢などの変化を踏まえ、2030年以降の社会を展望した教育行政を推進していくための基本方針として、新たな「舞鶴市教育振興大綱」を平成31年3月に策定しました。



2) 教育行財政について

①教育委員会事務局等の機構

平成 30 年 4 月 1 日現在)



③教育委員会事務局等の事務分掌

部	課	係	主な事務分掌
教育振興部	教育企画課	企画係	教育振興大綱、小中一貫教育の推進、ふるさと学習、地域の学校支援、PTA、教育施策の企画
	教育総務課	総務係 施設係	秘書、委員会の会議、規則の制定及び改廃、市費職員の人事・研修等、教育予算、備品の整備及び管理、環境衛生、施設・用地の整備等、教育財産の管理
	学校教育課	学務係 指導係	府費教職員の任免その他の人事、研修、健康管理、生徒指導、いじめ・不登校その他の教育相談、就・修学援助制度、教科書の採択、学校保健、学校安全、学校給食

(2) 小中学校の課外活動について

1) 小学校の課外活動について

舞鶴市内の小学校での課外活動の内容を以下に示します。

2年生	乗り物体験（電車に乗る）
3年生	水産加工場見学、セリ市場見学
4年生	清掃工場・リサイクルプラザ見学
5年生	青葉山ろく公園キャンプ場（宿泊、料理）、田植え・稲刈り体験
6年生	舞鶴引揚記念館見学

2) 中学校の課外活動について

1年生	ふるさと学習、青葉山ろくキャンプ場（料理）
-----	-----------------------

3) 送り先体験メニュー

舞鶴市内の小学校では、奈良・大阪・兵庫への修学旅行となり、薬師寺や東大寺大仏殿、法隆寺など歴史遺産の見学からユニバーサルスタジオジャパンや海遊館といったレジャー施設、ファーストピクチャー神戸やキッザニア甲子園のような陶芸・クラフト体験や職場体験への参加となっています。

<小学校>

	観光体験メニュー	食事（ホテル・弁当以外）	宿泊
奈良方面	・薬師寺 ・東大寺大仏殿 ・法隆寺 ・若草山 など	—	—
大阪方面	・京セラドーム ・ユニバーサルスタジオジャパン ・海遊館	—	・ホテルユニバーサルポート ・プラザオオサカ ・ホテル近鉄
兵庫方面	・ファーストピクチャー神戸（アクティビティ、陶芸体験、果物狩り、レジャー体験、クラフト工芸） ・キッザニア甲子園（職場体験） ・南京街	・古都屋 ・東栄酒家	・シーパル須磨（国民宿舎）

舞鶴市内の中学校では、広島・九州方面への修学旅行となり、原爆資料館や長崎市内への歴史・文化体験、めんたいこ作りなど地域特産を活かした体験への参加となっています。

<中学校>

	観光体験メニュー	食事（ホテル・弁当以外）	宿泊
九州方面	・ハウステンボス ・長崎市内観光 ・めんたいこ作り体験 ・ヤフオクドーム ・ペーロン	・各自	・ルークプラザホテル（長崎） ・ANA クラウンホテル ・長崎グラバーヒル ・ホテル日航ハウステンボス ・ビクトリアイン長崎 ・なかます ・ホテル清風 ・ホテルマリンワールド
広島方面	原爆資料館	—	—

<平成 31 年度 修学旅行の日程>

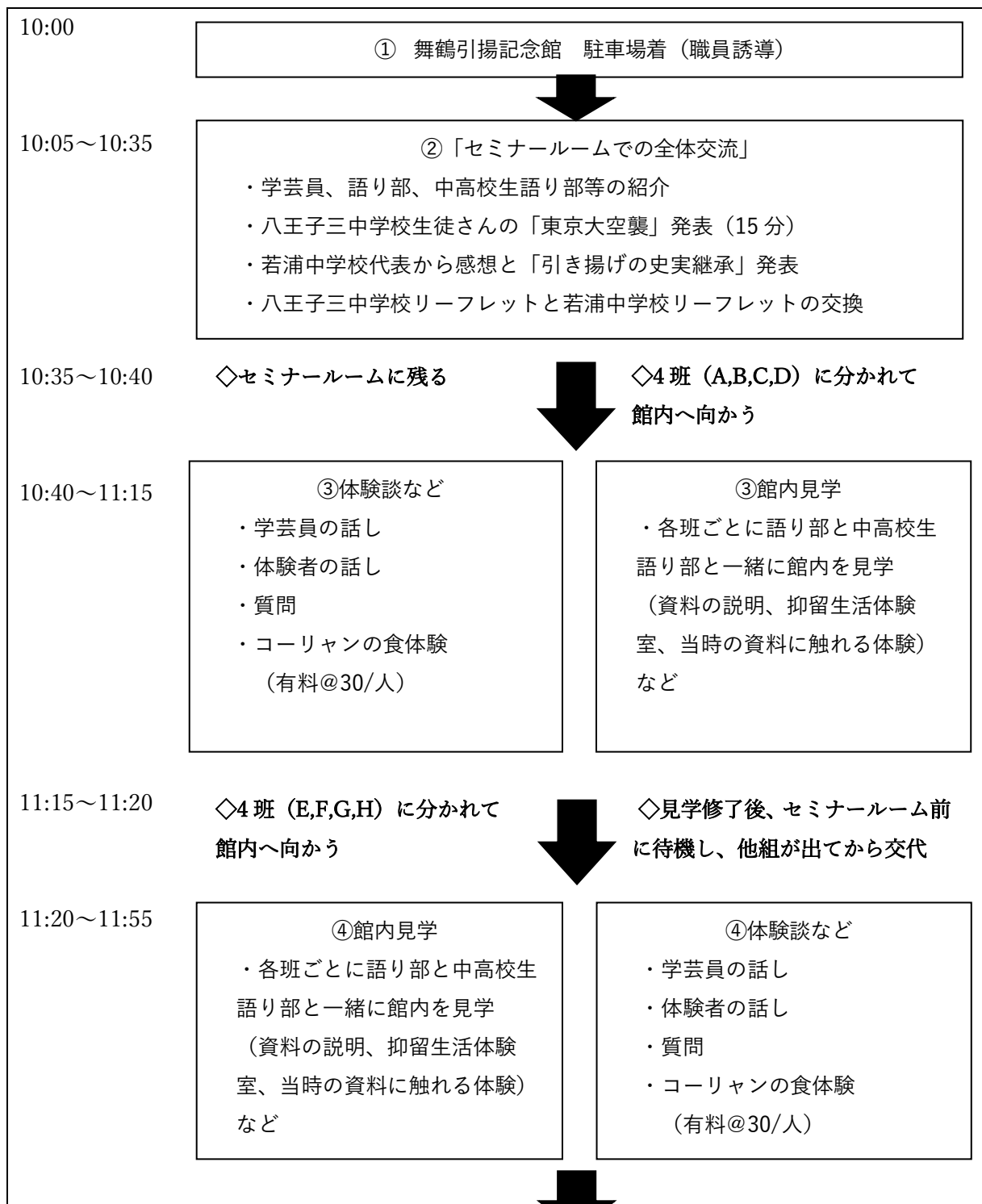
2 月 15 日現在

	出発日	帰着日	目的地
新舞鶴小学校	5月30日(木)	5月31日(金)	奈良方面
三笠小学校	5月23日(木)	5月24日(金)	奈良方面
倉梯小学校	5月30日(木)	5月31日(金)	奈良方面
倉梯第二小学校	5月29日(水)	5月30日(木)	大阪方面
与保呂小学校	5月23日(木)	5月24日(金)	奈良方面
志楽小学校	5月23日(木)	5月24日(金)	大阪方面
朝来小学校	6月6日(木)	6月7日(金)	奈良方面
大浦小学校	6月6日(木)	6月7日(金)	奈良方面
中舞鶴小学校	5月23日(木)	5月24日(金)	大阪方面
明倫小学校	6月6日(木)	6月7日(金)	大阪方面
吉原小学校	6月13日(木)	6月14日(金)	奈良方面
余内小学校	6月6日(木)	6月7日(金)	奈良方面
池内小学校	5月29日(水)	5月30日(木)	奈良方面
中筋小学校	6月6日(木)	6月7日(金)	大阪方面
福井小学校	6月13日(木)	6月14日(金)	大阪方面
高野小学校	5月29日(水)	5月30日(木)	奈良方面
岡田小学校	5月9日(木)	5月10日(金)	奈良方面
由良川小学校	5月9日(木)	5月10日(金)	奈良方面
青葉中学校	5月20日(月)	5月22日(水)	九州方面
白糸中学校	6月10日(月)	6月12日(水)	九州方面
和田中学校	5月15日(水)	5月17日(金)	九州方面
城南中学校	5月20日(月)	5月22日(水)	九州方面
城北中学校	5月22日(水)	5月24日(金)	九州方面
若浦中学校	5月22日(水)	5月24日(金)	九州方面
加佐中学校	5月15日(水)	5月17日(金)	九州方面

3. 観光事業におけるこれまでの取組み

(1) 八王子市からの中学生受入

現在、受入を行っている東京都八王子市からの中学生が体験したメニューを以下に示します。



11:55～12:10

⑤セミナールームで全体お別れ
※八王子三中学校で進行
・見学のお礼
・ふるさと合唱 など



12:30

①赤れんがパーク駐車場着（ガイド待受け、誘導）



12:40～13:30

②「舞鶴海軍グルメカレー＆肉じゃが」昼食（50分）
会場:赤れんがパーク5号棟（7～8人ずつ着席）
・クラス毎3カ所でのカレー受け取り
・サラダ、お茶は配膳
・肉じゃがは実行委員会メンバーにより配布



13:30～14:05

③自由散策(土産品購入等)(35分)



14:10

④海側芝生広場集合→赤れんが博物館へ移動



14:15～14:50

⑤赤れんが博物館見学(35分)
・前庭で全体説明（赤れんが博物館より）
・1組・・・1階、2、3組・・・2階から見学



15:00～15:40

⑥引揚ゆかりの港めぐり遊覧船(約40分)
・引揚記念館学芸員の船内ガイド付

<体験メニュー風景>



セミナールームでの全体交流



引き揚げの史実継承の発表



舞鶴海軍グルメカレー＆肉じゃが」昼食



芝生広場で記念撮影

(2) 提供可能な体験プログラム

○関西電力舞鶴発電所

舞鶴発電所は、「関西電力唯一の石炭火力としてベース電源」を担う発電所です。

舞鶴発電所では、自然のままの地形を利用し、敷地を二段造成するとともに、省スペースで石炭を貯蔵できるサイロ方式を採用し、開発面積を最小限に抑えることや、発電時に石炭とともにバイオマス燃料の木質ペレットを混焼することで、CO2 排出量削減を図ることなど、環境に対して様々な配慮を行っています。

生徒に電気をはじめとするエネルギー事情について学習させることで、SDGs におけるエネルギーに関する取り組みを考える材料とさせることができます。

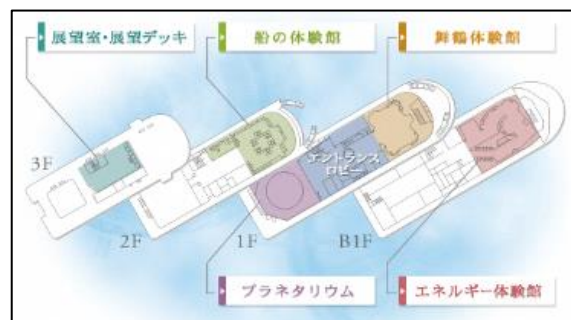


○舞鶴親海公園

舞鶴親海公園は、公園内の施設である「エル・マールまいづる」にて、エネルギー及び舞鶴の歴史を中心に学習することができます。

舞鶴親海公園内のレストランの使用も可能です。

(右図は、エル・マールまいづる施設図)



○牡蠣の養殖

舞鶴湾内海地域で盛んな、牡蠣養殖事業の取り組み及び、大量の牡蠣殻により現在発生している問題についての学習が可能です。実際に養殖設備を間近で見学させることにより、生徒が学んできた養殖漁業に関する知識の理解が深まります。



○赤れんが倉庫群

赤れんが倉庫群は、舞鶴鎮守府の軍需品等の保管倉庫として、明治 33 年（1900 年）に着手されて以来、大正 10 年（1921 年）までに次々と建築されました。

中でも明治期のものは、明治 34 年～36 年の 3 年余りの短い期間に建てられ、有名な日本海海戦が行われたのが明治 38 年（1905 年）であり、まさに当時の日本の国勢が伺える。これらは、外国産の鉄骨が使用されるなど、当時の国内の工業の未熟さが感じられる一方で、後

の大正期に建てられた倉庫と比べ、外観に意匠的な工夫が凝らされており、急ピッチで進められた工事であるにもかかわらず、丹念に作られているのが興味深いところです。これに対して、大正期のものは、国産の八幡製鉄造の鉄骨と組み合わせて大空間を作るなど、工法の違いも興味深いものです。

ここでは、日本の産業を担うにあたり、近代化に合わせた建物の外観などを体験できるため、自身の目で感じ取り、当時の背景を窺います。明治期にかけて建てられた建造物で 8 棟もの建物が重要文化財に指定され、かつ同じ場所に集まっていることは日本でも珍しいものです。また、現場に行くことで市民と行政が協働した「赤れんがを活かしたまちづくり」が見られ、開業当時の歴史を感じることに繋がります。



○葦谷砲台跡

明治時代に建造された砲台跡「葦谷砲台跡」です。この時代において、まだ過去の砲台跡が残っており、その状況を見ることによって、時代の移り変わりを実感できます。



○舞鶴引揚げ記念館

「岸壁の母」の歌とともに全国に知られる引き揚げのまち舞鶴です。昭和 20 年 10 月 7 日に引揚第 1 船「雲仙丸」が舞鶴に入港して以来、13 年にわたり、66 万人以上の引揚者と 1 万 6 千柱の遺骨を迎え入れ、多くの喜びと悲しみのドラマが生まれた。戦後 60 余年を経た今、往時を偲ぶ建物は残っていませんが、この引揚げの地を見下ろす小高い丘に、昭和 45 年「引揚げ記念公園」が設けられ、引揚げ桟橋も復元されています。また、昭和 63 年に「引揚げ記念館」が完成し、展示されている多くの貴重な資料を通じて、舞鶴の歴史と平和についての学習を深めることができます。



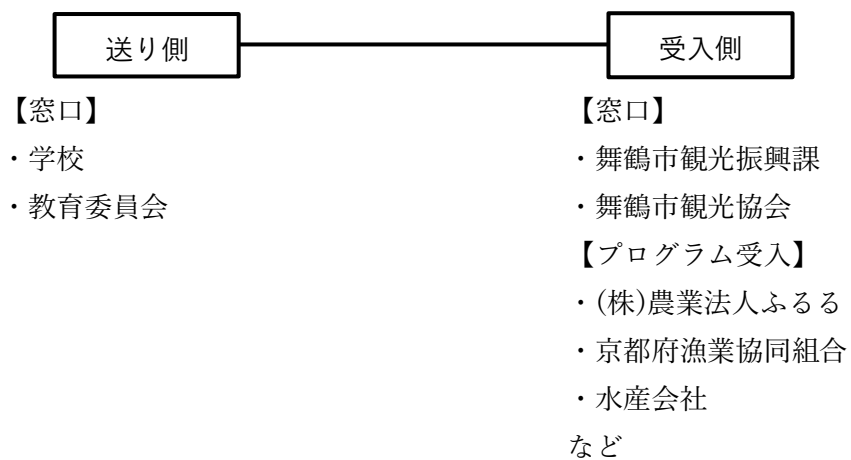
○舞鶴ふるるファーム

舞鶴市農業公園。地元農産物を可能な限り使用した 60 種類以上の自然食メニューのビュッフェスタイルの農村レストラン、加工体験や自然学習ができる手作り工房など、複数の施設があります。



(3) 受入体制

現状での体験プログラムについては、舞鶴市、舞鶴市観光協会、民間事業者（ふるるファーム等）が連携して取り組んでいます。



Ⅲ章 プランニングの整理

1. 舞鶴市子ども農山漁村体験プログラム

本事業では、京都産業大学の学生（都市部）のニーズを調査し、体験メニューの可能性を精査しました。本事業の目的である「農山漁村文化に根差した体験及び海洋資源等を持続可能にする取組み（SDGs）の学びとなるコース」を意識し、舞鶴市子ども農山漁村体験プログラムを以下に示します。

1) 目的・狙い

都会の子どもたちが、舞鶴市の農村漁村を通じて、SDGsを切り口に世界の現状とこれからの未来について考え、持続可能な社会を意識した選択を持つことを目的とし、子どもたちの今後の学習や生活において、社会問題へ挑戦する気持ちや、日々の消費活動が未来の環境を守る投資活動になることを目標とします。また、当たり前のことを立ち止まって考え、想像する機会を提供し、時代に必要な問題発見力を育みます。

2) 概要

参加する子どもたちが、目の前の出来事や事象から世界で起こっている社会課題の背景を想像し、考えるプログラムを展開します。持続可能な社会の必要性を舞鶴市の特徴的な資源や環境を「海」「山」「歴史」の観点から学ぶ機会とします。

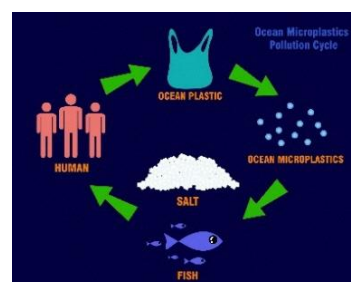
<「海」・エコノミーとエコシステム>

テーマ：ゴミを捨てたらどうなるの？

捨てたゴミが食卓に戻ってくるってホント？～自然の原理を学ぶ～

内 容：舞鶴の豊かな海を通じて、水産業（漁業・野原 定置網漁）・加工業（舞鶴かまぼこ工房）・商業（舞鶴港とれとれセンター）の経済の流れを理解するとともに、モノの付加価値が付くこと、お金の流れを学びます。また、海洋ゴミからマイクロプラスチックが発生する仕組み（プラスチック類のゴミの投棄→海洋への流出→魚が摂食→マイクロプラスチックを含む魚を人が摂取）を学び、自身の行動がどのように帰ってくるのか、社会・生態システム（エコシステム）を学び、気候変動による影響についても考えます。

* SDGs 12.つくる責任つかう責任
SDGs 13.気候変動に具体的な対策を
SDGs 14.海の豊かさを守ろう



画像転用：データの時間 (<https://data.wingarc.com/microplastic-20042>)

<「山」・ネイチャー>

テーマ：地域で生まれたのに、他府県に転校する野菜たち

～地産地消のない世界はエネルギーのない世界？～

内 容：舞鶴の山の幸や食材の魅力に触れながら、地産地消の価値や生産者と消費者の責任があることを学びながら、身の回りにある商品の裏側にあるサプライチェーンを理解します。また、環境負荷の少ない方法で栽培された農作物を地産地消すること（土壌にも優しい方法で栽培された農作物を地域で消費 → 地域で消費するので流通の輸送が減る → 化石燃料の使用量がダウンする）が、結果としてエネルギーの消費を減らし、未来に続く選択である（また、消費活動でなく、投資活動である）と気づくきっかけとなります。

* SDGs 2.飢餓をゼロに
SDGs 7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに
SDGs 15.陸の豊かさも守ろう



画像転用：ふるるファーム (<https://www.fururufarm.com/blank-2>)

<「歴史」・War、Happiness>

テーマ：ホッとする居心地のいい場所のつくり方

内 容：舞鶴港に面する舞鶴港舞鶴引揚記念館から過去に日本・舞鶴がどのようなことが起こったか（主に第2次世界大戦、シベリア抑留、舞鶴引揚援護局）を学び、海上自衛隊舞鶴地方隊から、日本の安全のつくられ方を学びます。その後、安心する居心地のいい場所の意味やどんな時に（またはどんな時でも）自分は幸せを感じるのかを考えるきっかけを創出します。

* SDGs 16.平和と公正をすべての人に



画像転用：<http://spogaku.pref.kyoto.lg.jp/institution/923.html>

3) プログラム例

以下、2泊3日のプログラムとしての実施例を示します。

(対象者想定：中学生・高校生 対象人数：10～50人)

【プログラム】

～1日目～

＜食事(昼)＞	<u>舞鶴の海の幸を感じよう@とれとれセンター</u> センター内で、昼食をとりながら、舞鶴の海の幸を味わい新鮮な鮮魚は豊かな海がギフトする貴重な資源であることを体感する。
＜講義・体験＞	<u>海の資源が食卓に美味しく並ぶまで@舞鶴かまぼこ工房</u> かまぼこ体験を通じ、漁師が自然から魚をいただきセリに出して販売することを「1次産業（漁業）」。漁師から販売された魚を加工して商品にし、小売店に販売することを「2次産業（かまぼこ工房）」。その商品を陳列しお客さんに販売することを「3次産業（とれとれセンター）」であり、少しずつ物の価値が上がる仕組みを学ぶ。
＜食事(夜)＞	<u>民宿</u> 民宿にて、舞鶴の海の幸を楽しむ。
＜放課後・天体観測＞	<u>あるから「ないもの」とないから「あるもの」</u> 都会にある「電灯」。舞鶴に少ない「電灯」。 都会にない「星空」。舞鶴に多い「星空」。 舞鶴にはないからこそあるものが他にないか探してみるきっかけになるよう海辺で天体観測を実施。

～2日目～

＜体験＞	<u>漁師のモーニングルーティンを体験！@野原 定置網</u> 伝統的な定置網漁を学びながら、気候変動による漁業への影響を聞き、気候変動が食卓にも影響を与えていることを学ぶ。
＜体験＞	<u>ペットボトルから社会・生態システムを学ぶ@野原海岸</u> 野原海岸に打ち上げられた海洋ゴミからプラスチックゴミ収集し、ペットボトルのポイ捨てが、どのようにして海に流ついているのか（国内外からもあることも）、またマイクロプラスチックとなり、魚が摂食し、食卓にその魚が並ぶシステムになっていることに気づく。
＜食事(昼)＞	<u>舞鶴の山の幸を感じよう@ふるるファーム</u> 舞鶴で育った食材をおいしくいただき、地産地消を体験。
＜講義・ワーク＞	<u>地産地消×規格外野菜＝未来のエネルギー@ふるるファーム</u> 地産地消をすることで無駄な生産（廃棄）が減り、流通コストが下がり結果的にエネルギーの使用が減ることを学ぶ。また、規格外野菜の存在や環境負荷の少ない農法で育てた食材の存在を知り、消費者としてどのような選択を

	すると地球が喜ぶのかを学び「消費活動」が「投資活動」であることに気づく。
<講義・ワーク>	<u>商品が届くまでの何人の人が働いているでしょう？@ふるるファーム</u> 商品がお店に並ぶまでのサプライチェーンを学ぶ（グループワーク）
<食事・交流>	<u>舞鶴の地元高校生とのセッション</u> テーマ：10年後の未来予測「働き方」「仕事内容」「ライフスタイル（生活）」 内 容：上記テーマを基に未来についてワクワクディスカッション

～3日目～

<見学>	<u>人の幸せを歴史から学ぶ @舞鶴引揚記念館</u> 当時（第二次世界大戦、シベリア抑留時）の10代はどんな教育を受けて、どんな時に幸せと感じていたかを考えながら見学し、当時と現代の価値観の違いに気づくきっかけに。
<講義・ワーク>	<u>私の幸せって何だろう？哲学ワーク</u> グループで下記のテーマについて話し合い、自身の幸せの価値観をアップデートする。 ①「私の最近あった幸せ・ラッキーなこと」 ②「当時の10代はどんな時に幸せを感じていたかを想像してみよう」 ③「今、私は何を幸せに感じるか」
<見学>	<u>海上自衛隊～防衛～@海上自衛隊舞鶴地方総監部</u> 海上自衛隊の取り組みや活動を見学しながら、なぜ、海上自衛隊が必要なのか、その背景と役割について考える（国際社会の一端に触れる）。
<ワーク>	<u>ふりかえり～舞鶴から私たちのこれからを考える～@海上自衛隊舞鶴地方総監部</u> プログラムを通じての気づきを「海」「山」「歴史」の3つのカテゴリーに分け、「学んだこと・気づき」「疑問に思ったこと」をふりかえる。また、舞鶴市に訪れる前と訪れた後で、自分の中での変化は何かを「ふりかえりシート」に記入し、どんな行動をしていきたいかをグループでシェアし修了する。 自宅に帰り、ふりかえりシートを基に舞鶴市のプログラム内容を家族に共有し、家族からのコメントを「ふりかえりシート」家族のコメント欄に記入し、学びを共有する。

IV章 継続的な実施体制の構築

1. 継続的な実施体制の構築等に係る現状と課題

(1) 受入体制

① 関係部署、関係団体との連携強化

－教育機関との連携

送り側の学校、受入側にある学校や教育委員会などの事務局、市内事業者や旅行者などと協働してプログラム内容を精査する必要があると考え、今後、関係部署関係団体との連携をより推進していくことが必要になる。

なお、京都産業大学と舞鶴市は包括的連携協定を締結しており、リカレント教育による人材育成、地域創生に向けた学生による調査・研究（フィールドワーク）を実施することとしており、令和元年度、京都産業大学と連携して学生による資源の掘り起こしとプログラムの提案を実施しています。

－農業・商工業との連携

現在の農業・漁業における地域的課題、インフラ整備や自然環境の変化、新しい地域での取組みを子ども達に伝えたいと考えます。舞鶴での農業者や漁業関係者による体験プログラムの提供を充実することで、受け入れ時のプログラムの魅力向上を図ることが必要であり、そのためには、市内の農業・商工業者との連携を進めることが課題です。

－周辺自治体広域連携

今後、新たな受入を進めていくためにも、舞鶴市だけの単位でものごとを考えず、都市と農村相互に体験できるよう、広域連携に取り組むことが必要と考えます。

ついては、平成 28 年には（一財）京都府北部地域連携都市圏振興社（通称：海の京都 DMO）が設立され、京都府北部 5 市 2 町が一体となった観光マーケティングやプロモーションを行っています。子供農山漁村交流においても、この枠組みを活用した受入を推進することが有効と考えます。

さらに、近隣であっても、住んでいるまち以外のことは知らないという子どもたちは多く、相互の理解を深めるためにも、府内小中学生の受け入れについても、各自治体との連携により推進を図ることが大切だと考えます。

② 宿泊滞在の充実

ー宿泊施設との連携強化・民泊の普及啓発

かつて海水浴をメインとした民宿業が盛んであった大浦地区などにおいて、民宿業の再興と元民宿施設の空き家の活用が課題となっています。民泊事業として、民宿との連携することや、民泊家庭の確保・受入にについて、普及啓発を進める必要があります。

また、子どもたちの宿泊体験活動の受け入れに向けて、現在市内の旅館やホテルとの連携が十分ではありません。

③ 受入窓口の充実

ー受け入れ窓口の人材

受け入れ地域の役員などの高齢化により、地域内の新しいキーマンの育成が必要です。

(2) プログラム

① 地域の資源を活かすプログラムの充実

ー参画する地域住民・事業者

農業や漁業などの体験については、1次産業に携わる地域住民が体験交流の受け入れに参画し、環境にとって持続可能な産業形態であるかを省みて、自らの在り方を問い直すことが必要と考えます。そのことにより、教育効果と環境に配慮したプログラムへと充実を図ることにつながります。

ー地域資源の価値を高めるプログラム

舞鶴市には、海・山・川の自然や漁業・農業の1次産業や軍港としての歴史など多くの資源があります。それらを体験プログラムとして活用することで、地域資源の価値を高めるとの視点が必要であり、そのことが舞鶴の体験の独自性を強めることにつながると考えます。

② 送り側のニーズに対応するプログラムの充実

ープログラムのSDGsへの関連付け

昨今、教育旅行の分野において、SDGsを学ぶことができるプログラムへのニーズが高まっています。気候変動や海洋汚染、エネルギー問題、地域の高齢化・担い手不足など、持続可能な地域づくりへの課題となるテーマについて、舞鶴市には多くの関連する資源があり、これらを活用し、SDGs 関連学習として教育効果を持つプログラムの開発が可能であると考えます。

令和元年度には、京都産業大学との連携により、SDGsの学びとなる舞鶴市での体験プログラムについての検討を行っており、これらの成果を活用することが可能です。

一教育関係者の参画

宿泊体験活動についての児童生徒への学習効果が高い内容とすることが必要です。ただし、その効果検証については専門性が必要であるため、専門家や学校の教師、教育委員会など教育関係者の知見を活用することが必要です。

③ 地域間連携、関係人口創出につながるプログラム

一都市側・農村側の同世代の子ども同士の交流

多様性の時代において、都市部に住んでいる子どもは、農村部の現状を知り地方が抱えている問題に向き合う機会が必要と考えます。

特に、同世代の子ども同士が交流することで、都市部の子どもが生活をしている場所には無い、農村部の魅力的な自然や歴史的な遺産等に気付くことによって、子どものうちから子どもの目線で地域創生の重要性について学ぶことにつながります。

このような同世代の子ども同士の交流を促進することが、今後の都市間交流の促進にもつながります。

また、平和問題や環境問題は都市農村の区別なくつながっている共通の課題であることを、学ぶ機会にもなります。

(3) 営業・情報発信の充実化

① 対外的な情報発信

一ターゲットの設定

SDGs テーマ型教育旅行は、教育機関からのニーズが高まっています。これまで、平和学習を切り口とした修学旅行であったが、今後は、平和学習に環境学習を合わせた SDGs テーマ型教育旅行としての訴求を行なう必要があります。

その際、小中学校や高校の修学旅行、それ以外の学校の宿泊交流活動や社会教育としての受入、また、日帰りでの体験受入、インバウンドの教育旅行など、教育旅行の受入の各タイプに対応するターゲットの設定が行う必要があります。

一ターゲットへのアプローチ

修学旅行の受け入れを狙った旅行会社への営業活動、修学旅行以外の学校の宿泊交流活動や社会教育としての受け入れなど各タイプに対応した旅行会社や関連のあるメディアなどへの発信が必要となります。

②地域内での理解促進

―地域住民や事業者の誇り醸成と理解促進

子どもたちに舞鶴のことを知ってもらい、地域住民や事業者自らもその価値を顧みる、誇りを再認識することが重要であると考えます。そのため、広く地域の関係者に参画してもらうことが重要であります。

(4) 人材の確保・育成

①地域住民・事業者の参画

―参画する地域住民・事業者の確保

今後、多くの子どもたちの受け入れを進めるにあたっては、現在関わっている住民や事業者の他にも、多くの方々の活躍が必要になります。

②ガイド人材を増やす

―企画運営・体験交流のできるガイド人材確保・育成が必要

暮らしや風習、定置網の秘密、不思議な建物など、独自の視点を持つガイドと歩けば、まちのあちこちに潜んでいた面白さが浮かび上がってきます。また、そのまちへの愛着、教養が身につくことで関係人口の創出につながります。それら、企画運営・体験交流ができるガイドの人材育成が必要と考えます。

併せてそれら地域人材との連携強化に向けた環境整備が必要となります。

2. 継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策

(1) 受け入れ体制の充実化

① 関係部署、関係団体との連携強化

－教育機関との連携

- ・市内小中学校の児童・生徒による体験の実施を通じて、内容のモニタリングを進めることに取り組みます。また、外部からの子どもたちの受け入れ時の市内小中学生との交流を合わせて実施することにも取り組みます。
- ・京都産業大学と連携し、学生による資源の更なる掘り起こしや、プログラムの提案などを積極的に進めていきます。

－農業・商工業との連携

- ・農業体験での、農業協同組合や体験受入ができる「舞鶴ふるるファーム」との連携や、漁業体験での漁業協同組合や定置網漁業創業する漁業会社などとの連携、舞鶴の商業、工業、インフラ事業者などとの連携を進めます。

－周辺自治体・京都府との広域連携

- ・今後の受け入れを進めるにあたり、多様な体験プログラムの実施を可能とするため、また宿泊受入の補完としても近隣市町村との連携を図ります。
- ・さらに、府内小中学校からの体験交流の受入について、府内自治体との連携を図ります。

－都市部送り出し側地域との連携

- ・子どもたちの交流を契機として、舞鶴市と送り出し側の地域とのつながり強化を狙います。観光交流での相互交流、舞鶴市の物産販売や人的交流の取組を進めます。

② 宿泊受入体制の充実

－宿泊施設との連携強化

- ・子どもたちの宿泊体験活動の受け入れに向けて、市内の旅館やホテルとの連携を図ります。旅館やホテルでの地域食材の提供や集団学習の場の提供などについて検討・調整を進めます。

－民泊の普及啓発

- ・今後、民泊事業を推進するにあたり、民泊先の確保・受入を進めます。民宿事業者との連携、元民泊施設の活用、市内の各家庭での受入などを進めるために、個別訪問や説明会で、他地域のモデル的な事例の紹介や、民泊の魅力を伝え、参画の動機付けを行います。

③ 受入体制の整備

―体験・宿泊の受け入れ窓口の構築

- ・舞鶴市での子どもたちの受け入れについて、体験プログラムと宿泊の調整、民泊事業構築や新たな体験プログラム構築、営業や受入対応窓口となる体制構築を図ります。
- ・そのための人材確保・育成に努めます。

(2) 体験プログラムの充実化

① 地域資源の活用によるプログラムの開発

―地域住民・事業者の参画

- ・体験プログラムにより、子どもたちが、舞鶴の自然や産業、生活、地域づくりを深く学ぶこと、また、舞鶴の人々の生きざまを伝えることを狙います。そのために、地域の住民・関連事業者が子どもたちを現場に受入れ、ガイドとして活躍いただけるように、事業の狙いの周知や参画の動機付けを図ります。

―地域資源の価値を高めるプログラム

- ・舞鶴市の、海・山・川の自然や漁業・農業の1次産業や軍港としての歴史、発電所などのインフラなどについて、子供たちの学びにつながるようプログラムとして構築します。
- ・舞鶴の昔からの暮らしの知恵、山と海のつながりに基づいた文化風習などについても、子どもたちに地域の誇りと社会的意義を伝えるプログラムとして構築します。

② 教育効果の高いプログラムの開発

―SDG s に関連付くプログラム開発

- ・舞鶴市にある、気候変動や海洋汚染、エネルギー問題、地域の高齢化・担い手不足など、持続可能な地域づくりへの課題に関連する資源を活用し、SDG s 関連学習として教育効果を持つプログラムの開発に取り組みます。例えば、従前はゴミであり環境汚染の原因であったカキ殻を肥料化して農業に活用するなどの取組は、貴重な学習資源となります。

―教育関係者の参画

- ・プログラム開発にあたり、地域の資源の活用や地域の漁業者・農業者、他事業者、地域住民や専門家などの協力のもとで推進しますが、教育効果については、専門家や学校の教師、教育委員会など教育関係者の参画のもとで検討・検証を進めます。

③ 地域間での連携強化のためのプログラムの開発

―都市側・農村側の同世代の子ども同士の交流

- ・地元の子どもたちと一緒に農林漁業体験を実施する、一緒に地域課題を考える、社会問題を考えるなど、普段一緒にない子供たち同士の交流は、送り側からも効果的だと評価される内容であることから、舞鶴市の小中学生が、他地域からの子どもたちと交流する場づくりを行います。

(3) 営業・情報発信

①ターゲット層への情報発信

―ターゲットの設定

- ・小中学校や高校の修学旅行、それ以外の学校の宿泊交流活動や社会教育としての受入、また、日帰りでの体験受入、インバウンドの教育旅行など、教育旅行の受入の各タイプに対応するターゲットの設定を行います。
- ・現状は、東京都八王子市の中学生の受け入れがあることから、関東の中学校への発信や、日本遺産で連携する長崎県佐世保市や広島県呉市とのつながりを活かした交流の実施、京都市での歴史と舞鶴の自然・農林漁業や軍港の歴史を組み合わせた全国の高校の修学旅行受入など戦略的にターゲットの設定を行い、平和学習に環境学習を合わせた SDGs テーマ型教育旅行としての訴求を図ります。

―旅行会社などへのアプローチ

- ・旅行会社への発信や、上記関連のある地域への直接発信、メディアでの発信などターゲットに対応して多角的なアプローチに取り組みます。

②地域内での理解促進

―誇りの醸成と社会的意義

- ・地域住民や事業者にも子ども農山漁村交流の意義を理解いただき、地域がねらう経済的効果や社会的意義について理解を図る必要があります。そのために、ニュースレターの発信、ホームページ、SNS 等による発信等、地域住民や事業者などが取組みを理解し、協力者となってくれるよう情報発信に努めます。

(4) 人材の確保・育成

① 地域での動機付け

ー地域住民・事業者を対象とした研修会

- ・子どもたちの受け入れについての教育的効果や地域にとっての意義、その楽しさなどを伝える場づくりを行います。地域の方々を対象とした説明会や、先進地視察などを通して、周知・理解を進め、参加・活躍してくれる方々を増やします。
- ・民泊実施についても、その方法、具体的に実施すべきことなど、他地域での実践者などを招いた研修会の開催、先進地視察など、実施するに当たっての配慮事項、安全管理などについて学ぶ機会を作ります。

② ガイド人材の育成

ー企画運営・体験交流のできるガイド人材確保・育成

- ・体験交流についてガイドができる人材の育成を図ります。体験交流の受け入れを実施している方々や専門家からの指導の仕組みを構築します。
- ・また、ガイド人材同士の情報交換・交流の機会創出に取り組みます。

V章 目標数値の設定

(1) 受入体制の充実化

■民泊受入家庭及び農山漁村民宿件数

人口減少に伴い、10 年後現在の農山漁村民宿の減少が想定されるため、民泊受入家庭の現状維持を目指します。

	現状	5 年後	10 年後
民泊家庭及び 農山漁村民宿数	3 2	3 0	3 0

(2) プログラムの充実化

■教育的効果のある交流体験の推進

送り側と連携して、事前学習・実施後フォロー等の取り組みを実践します。

	現状	5 年後	10 年後
教育効果のある 交流事業数	1 校	5 校	7 校

■地域資源を活用したプログラム数

	現状	5 年後	10 年後
プログラム数	1 件	5 件	10 件

(3) 営業・情報発信

■民泊受入件数（受入人数規模）

	現状	5 年後	10 年後
教育旅行受入 人数（年間）	1 2 0 人	4 0 0 人	5 6 0 人

(4) 人材の確保・育成

■ガイド人材

体験プログラムを受け入れることのできる地域のガイドを確保・育成します。

	現状	5 年後	10 年後
ガイド人数	3 人	6 人	9 人